

2. 北海道医療大学大学院 三方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

北海道医療大学大学院では、教育理念・教育目的および教育目標に基づき、各研究科専攻において学位授与要件が定められています。各研究科専攻の定められた学位授与要件を満たし、高度な専門性と研究能力を修得したと認められる者に対して、「修士または博士」の学位を授与します。なお、本学大学院には以下の研究科および専攻を置きます。

薬学研究科：薬学専攻（博士課程）

歯学研究科：歯学専攻（博士課程）

看護福祉学研究科：看護学専攻（修士課程および博士課程）

臨床福祉学専攻（修士課程および博士課程）

心理科学研究科：臨床心理学専攻（修士課程および博士課程）

リハビリテーション科学研究科：リハビリテーション科学専攻（修士課程および博士課程）

医療技術科学研究科：臨床検査学専攻（修士課程および博士課程）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

北海道医療大学大学院研究科の各専攻（課程）では、教育理念・教育目的および教育目標に沿った学位授与の方針に基づく教育課程編成・実施の方針を定めており、「コースワーク」と「リサーチワーク」を適切に組み合わせた教育・研究課程を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

北海道医療大学大学院では、高度な専門知識・技術の修得と豊かな人間性を有する高度専門職業人の養成と最先端の研究活動を行える研究者・教育者としての人材を養成する研究・教育活動を行います。そのため研究科の各専攻(課程)ではこれらの目的に沿った学位授与の方針を定めており、学位授与の方針の要件をより効果的に達成しうる資質を持った人材について「入学者受入れの方針」として定めています。

なお、上記の北海道医療大学大学院の三方針（学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れの方針）に基づいて各研究科専攻（課程）の三方針の詳細が定められています。

看護福祉学研究科看護学専攻（修士課程）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下の要件を満たし、看護学における高度な専門性と研究能力を修得したと認められる者に対して、「修士（看護学）」の学位を授与する。

1. 看護と福祉の連携・統合に関する学際的な深い学識および高い倫理観を備えた看護専門職として、ヒューマンケアを遂行する能力を身につけている。
2. 看護学における高度な専門知識と技術を修得し、継続的な学術の探究と社会に発信するための基礎的な能力を身につけている。
3. 看護の高度専門職業人として、保健・医療・福祉の向上と改革に必要な自律的かつ創造的な実践力を身につけている。
4. 社会の発展ならびに人々の健康の向上に貢献するため、多様なニーズ、時代の変化に柔軟かつ創造的に対応し、持続的に看護教育・研究を推進できる能力を身につけている。
5. 看護専門職として、地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なマネジメントおよびリーダーシップを発揮できる能力を身につけている。

DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
看護と福祉の連携・統合に関する学際的な深い学識および高い倫理観を備えた看護専門職として、ヒューマンケアを遂行する能力を身につけている。	看護学における高度な専門知識と技術を修得し、継続的な学術の探究と社会に発信するための基礎的な能力を身につけている。	看護の高度専門職業人として、保健・医療・福祉の向上と改革に必要な自律的かつ創造的な実践力を身につけている。	社会の発展ならびに人々の健康の向上に貢献するため、多様なニーズ、時代の変化に柔軟かつ創造的に対応し、持続的に看護教育・研究を推進できる能力を身につけている。	看護専門職として、地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なマネジメントおよびリーダーシップを発揮できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護福祉学研究科看護学専攻（修士課程）の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. ヒューマンケアを遂行する能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域の看護学特論に関する科目、「看護学専攻選択科目」に看護倫理に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」にコミュニティにおける看護と福祉の統合に関する科目を配置する。
2. 継続的な学術の探究と社会に発信する基礎的な能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域の知識と技術に関する看護学演習科目、「看護学専攻選択科目」に高度実践に関する科目を配置する。
3. 自律的かつ創造的な実践力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域の臨地実習に関する科目を配置する。
4. 社会の発展と人々の健康の向上に貢献できる持続的な看護教育・研究推進能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に看護学研究に関する科目、「看護学専攻選択科目」に看護教育に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。
5. 地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なリーダーシップ能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域のマネジメントおよびリーダーシップに関する看護学演習科目、「看護学専攻選択科目」に地域および国際社会における保健医療福祉に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に多職種連携に関する科目を配置する。
6. 各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。
7. 論文作成のプロセスでは、指導担当教員による継続的教育のもと、研究計画書の作成、中間報告会、倫理審査、最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。
8. 学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。
9. 学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

1. 教育内容				
CP1	CP2	CP3	CP4	CP5
ヒューマンケアを遂行する能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域の看護学特論に関する科目、「看護学専攻選択科目」に看護倫理に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」にコミュニティにおける看護と福祉の統合に関する科目を配置する。	継続的な学術の探究と社会に発信する基礎的な能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域の知識と技術に関する看護学演習科目、「看護学専攻選択科目」に高度実践に関する科目を配置する。	自律的かつ創造的な実践力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域の臨地実習に関する科目をする。	社会の発展と人々の健康の向上に貢献できる持続的な看護教育・研究推進能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に看護学研究に関する科目、「看護学専攻選択科目」に看護教育に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。	地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なリーダーシップ能力を修得するため、「看護学専攻コア科目」に各専門領域のマネジメントおよびリーダーシップに関する看護学演習科目、「看護学専攻選択科目」に地域および国際社会における保健医療福祉に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に多職種連携に関する科目を配置する。
2. 教育方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。 ・継続的教育のもと、研究計画書の作成、中間報告会、倫理審査、最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。 				

3. 評価方法

- ・学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。
- ・学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

看護福祉学研究科看護学専攻（修士課程）では、地域社会の発展ならびに人々の健康の向上に貢献できる高度専門職業人の養成を目標とし、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 学際的に学修するために必要な基礎学力と倫理性を備えた人
2. 看護専門職としての知識と技術を備え、探求心を持ち、社会に発信するための積極的な行動力のある人
3. 自分の考えを表現し、他者からのフィードバックを柔軟に受け入れ、自己研鑽できる人
4. 時代や社会の変化に関心を持ち、論理的思考を備え、社会に貢献したいというキャリアビジョンのある人
5. グローカルな視点で研究と高度実践を行うために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉の分野においてリーダーシップ志向のある人

AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
学際的に学修するために必要な基礎学力と倫理性を備えた人	看護専門職としての知識と技術を備え、探求心を持ち、社会に発信するための積極的な行動力のある人	自分の考えを表現し、他者からのフィードバックを柔軟に受け入れ、自己研鑽できる人	時代や社会の変化に関心を持ち、論理的思考を備え、社会に貢献したいというキャリアビジョンのある人	グローバルな視点で研究と高度実践を行うために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉の分野においてリーダーシップ志向のある人

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語および看護学領域に関する専門科目の筆記試験により修学に必要な基礎学力、論理的思考を評価し、さらに志望理由書、履歴書および業務調査（勤務経験者のみ）などの出願書類と面接により倫理性、行動力、自己研鑽やリーダーとなる意欲について評価します。

「社会人選抜」は、小論文により基礎学力、論理的思考力、表現力を評価し、さらに志望理由書、履歴書および業務調査などの出願書類と面接によりキャリアビジョン、倫理性、行動力、自己研鑽やリーダーとなる意欲について評価します。

看護福祉学研究科看護学専攻（博士課程）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下の要件を満たし、深い学識と独創的な研究力、指導的役割の発揮力を修得したと認められる者に対して、「博士（看護学）」の学位を授与する。

1. 看護学の研究者として、先進的な研究を遂行するために必要な高度な学識と高い倫理観を持ち、社会的責任を深く自覚し、研究能力を身につけている。
2. 看護における高度な専門知識および学術の修得を通じて、看護学の固有性を追求する態度を持ち、自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を身につけている。
3. 時代や社会の変化に対応可能な研究を開発・推進するために、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言ができ、学際的研究において指導的役割を担う能力を身につけている。

DP1	DP2	DP3
看護学の研究者として、先進的な研究を遂行するために必要な高度な学識と高い倫理観を持ち、社会的責任を深く自覚し、研究能力を身につけている。	看護における高度な専門知識および学術の修得を通じて、看護学の固有性を追求する態度を持ち、自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を身につけている。	時代や社会の変化に対応可能な研究を開発・推進するために、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言ができ、学際的研究において指導的役割を担う能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護福祉学研究科看護学専攻（博士課程）の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 看護学の研究者としての先進的研究の遂行に必要な研究能力を修得するために、「看護学専攻科目」に各専門領域の看護論に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に深い学識と高い倫理観・責任感を養う科目を配置する。
2. 看護学の自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を修得するために、「看護学専攻科目」に各専門領域の看護論演習に関する科目、「看護学専攻選択科目」に高度実践看護に関する科目を配置する。
3. 時代や社会の変化に対応し、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言、学際的研究に指導的役割を担う能力を修得するために、「看護学専攻科目」に看護学特別研究に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。
4. 各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。
5. 論文作成のプロセスでは、指導担当教員による継続的教育のもと、研究計画書の作成、倫理審査、中間研究報告会と中間審査員からの指導、学外審査員を含む審査体制での最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。
6. 学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。
7. 学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

1. 教育内容		
CP1	CP2	CP3
看護学の研究者としての先進的研究の遂行に必要な研究能力を修得するために、「看護学専攻科目」に各専門領域の看護論に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に深い学識と高い倫理観・責任感を養う科目を配置する。	看護学の自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を修得するために、「看護学専攻科目」に各専門領域の看護論演習に関する科目、「看護学専攻選択科目」に高度実践看護に関する科目を配置する。	時代や社会の変化に対応し、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言、学際的研究に指導的役割を担う能力を修得するために、「看護学専攻科目」に看護学特別研究に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。
2. 教育方法		
・各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。 ・論文作成のプロセスでは、指導担当教員による継続的教育のもと、研究計画書の作成、倫理審査、中間研究報告会と中間審査員からの指導、学外審査員を含む審査体制での最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。		
3. 評価方法		
・学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。 ・学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。		

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

看護福祉学研究科看護学専攻（博士課程）では、高度な学識および独創的な研究力を有し、保健・医療・福祉分野において高度な実践を提供し指導的役割を担うことができる人材の養成を目標としています。そのため、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 看護学の研究者としてのキャリアビジョンをもち、高い倫理観・責任感のもと基礎的な学力・研究力を備えている人
2. 自立した研究者として、独創的な研究課題をもち、開拓的研究に向けて深い探求心があり、自己研鑽できる人
3. グローバルな視野で学際的な研究を遂行するために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉分野の第一線で活躍する教育者・研究者をめざし、リーダーシップを発揮できる人

AP1	AP2	AP3
看護学の研究者としてのキャリアビジョンをもち、高い倫理観・責任感のもと基礎的な学力・研究力を備えている人	自立した研究者として、独創的な研究課題をもち、開拓的研究に向けて深い探求心があり、自己研鑽できる人	グローバルな視野で学際的な研究を遂行するために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉分野の第一線で活躍する教育者・研究者をめざし、リーダーシップを発揮できる人

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語、看護学領域に関する専門科目の筆記試験及び口述試験により修学に必要な学力・研究力および語学力を評価し、さらに研究計画書、履歴書及び業務調書などの出願書類によりキャリアビジョン、独創的な研究課題を有していることや研究への深い探求心、リーダーシップの発揮に関する意欲について評価します。

看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（修士課程）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下の要件を満たし、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得したと認められる者に対して、「修士（臨床福祉学）」の学位を授与する。

1. 看護と福祉の連携・統合に関する学際的な深い学識および高い倫理観を備えた福祉専門職として、ヒューマンケアを遂行する能力を身につけている。
2. 社会福祉学における高度な専門的知識と技術を修得し、継続的な学術の探究と社会に発信するための基礎的な能力を身につけている。
3. 福祉の質向上に寄与する高度専門職業人として、保健・医療・福祉の向上と改革に必要な自律的かつ創造的な実践力を身につけている。
4. 社会の発展ならびに人々の福祉の向上に貢献するため、多様なニーズ、時代の変化に柔軟かつ創造的に対応し、持続的に福祉教育・研究を推進できる能力を身につけている。
5. 福祉専門職として、地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なマネジメントおよびリーダーシップを発揮できる能力を身につけている。

DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
看護と福祉の連携・統合に関する学際的な深い学識および高い倫理観を備えた福祉専門職として、ヒューマンケアを遂行する能力を身につけている。	社会福祉学における高度な専門的知識と技術を修得し、継続的な学術の探究と社会に発信するための基礎的な能力を身につけている。	福祉の質向上に寄与する高度専門職業人として、保健・医療・福祉の向上と改革に必要な自律的かつ創造的な実践力を身につけている。	社会の発展ならびに人々の福祉の向上に貢献するため、多様なニーズ、時代の変化に柔軟かつ創造的に対応し、持続的に福祉教育・研究を推進できる能力を身につけている。	福祉専門職として、地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なマネジメントおよびリーダーシップを発揮できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（修士課程）の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. ヒューマンケアを遂行する能力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域の特論に関する科目、および「臨床福祉学専攻選択科目」のソーシャルワークやスーパービジョンに関する科目、看護福祉学研究科共通科目にコミュニティに関する科目を配置する。
2. 継続的な学術の探究と社会に発信するための基礎的な能力を修得するため「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域の知識と技術に関する臨床福祉学演習科目、「臨床福祉学選択科目」に実践および研究に関する科目を配置する。
3. 自律的かつ創造的な実践力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域の福祉実習に関する科目を配置する。
4. 社会の発展と人々の福祉の向上に貢献できる持続的な福祉教育・研究推進能力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」および「臨床福祉学専攻選択科目」に福祉学研究に関する科目、「臨床福祉学専攻選択科目」に福祉教育に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。
5. 地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なリーダーシップ能力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域のマネジメントおよびリーダーシップに関する演習科目、「臨床福祉学専攻選択科目」に地域および国際社会における保健医療福祉に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に多職種連携に関する科目を配置する。

6. 各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。
7. 論文作成のプロセスでは、指導担当教員による継続的教育のもと、研究計画書の作成、中間報告会、倫理審査、最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。
8. 学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。
9. 学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

1. 教育内容				
CP1	CP2	CP3	CP4	CP5
ヒューマンケアを遂行する能力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域の特論に関する科目、および「臨床福祉学専攻選択科目」のソーシャルワークやスーパービジョンに関する科目、看護福祉学研究科共通科目にコミュニケーションに関する科目を配置する。	継続的な学術の探求と社会に発信するための基礎的能力を修得するため「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域の知識と技術に関する臨床福祉学演習科目、「臨床福祉学選択科目」に実践および研究に関する科目を配置する。	自律的かつ創造的な実践力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域の福祉実習に関する科目を配置する。	社会の発展と人々の福祉の向上に貢献できる持続的な福祉教育・研究推進能力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」および「臨床福祉学専攻選択科目」に福祉学研究に関する科目、「臨床福祉学専攻選択科目」に福祉教育に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。	地域および国際社会における保健・医療・福祉の課題解決に向けて政策提言ができ、必要なリーダーシップ能力を修得するため、「臨床福祉学専攻コア科目」に各専門領域のマネジメントおよびリーダーシップに関する演習科目、「臨床福祉学専攻選択科目」に地域および国際社会における保健医療福祉に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に多職種連携に関する科目を配置する。
2. 教育方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。 ・論文作成のプロセスでは、指導担当教員による継続的教育のもと、研究計画書の作成、中間報告会、倫理審査、最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。 				
3. 評価方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。 ・学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。 				

入学受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（修士課程）では、地域社会の発展ならびに人々の福祉の向上に貢献できる高度専門職業人の養成を目標とし、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 学際的に学修するために必要な基礎学力と倫理性を備えた人
2. 福祉専門職としての知識と技術を備え、探求心をもち、社会に発信するために積極的な行動力のある人
3. 自分の考えを表現し、他者からのフィードバックを柔軟に受け入れ、自己研鑽できる人
4. 時代や社会の変化に関心をもち、論理的思考を備え、社会に貢献したいというキャリアビジョンのある人
5. グローバルな視点で研究と高度実践を行うために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉の分野においてリーダーシップ志向のある人

AP1	AP2	AP3	AP4	AP5
学際的に学修するために必要な基礎学力と倫理性を備えた人	福祉専門職としての知識と技術を備え、探求心をもち、社会に発信するために積極的な行動力のある人	自分の考えを表現し、他者からのフィードバックを柔軟に受け入れ、自己研鑽できる人	時代や社会の変化に関心をもち、論理的思考を備え、社会に貢献したいというキャリアビジョンのある人	グローバルな視点で研究と高度実践を行うために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉の分野においてリーダーシップ志向のある人

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語および福祉学領域に関する専門科目の筆記試験により修学に必要な基礎学力、論理的思考を評価し、さらに研究計画書などの出願書類と面接により倫理性、行動力、自己研鑽やリーダーとなる意欲および研究計画の妥当性について評価します。

「社会人選抜」は、小論文により基礎学力、論理的思考力、表現力を評価し、さらに履歴書、業務調書および研究計画書などの出願書類と面接によりキャリアビジョン、倫理性、行動力、自己研鑽やリーダーとなる意欲および研究計画の妥当性などについて評価します。

看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（博士課程）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下の要件を満たし、深い学識と独創的な研究力、指導的役割の発揮力を修得したと認められる者に対して、「博士（臨床福祉学）」の学位を授与する。

1. 社会福祉学の研究者として、先進的な研究を遂行するために必要な高度な学識と高い倫理観をもち、社会的責任を深く自覚し、研究能力を身につけている。
2. 福祉における高度な専門知識および学術の修得を通じて、社会福祉学の固有性を追求する態度をもち、自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を身につけている。
3. 時代や社会の変化に対応可能な研究を開発・推進するために、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言ができ、学際的研究において指導的役割を担う能力を身につけている。

DP1	DP2	DP3
社会福祉学の研究者として、先進的な研究を遂行するために必要な高度な学識と高い倫理観をもち、社会的責任を深く自覚し、研究能力を身につけている。	福祉における高度な専門知識および学術の修得を通じて、社会福祉学の固有性を追求する態度をもち、自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を身につけている。	時代や社会の変化に対応可能な研究を開発・推進するために、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言ができ、学際的研究において指導的役割を担う能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（博士課程）の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 社会福祉学の研究としての先進的研究の遂行に必要な研究能力を修得するために、「臨床福祉学専攻科目」に各専門領域の福祉論に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に深い学識と高い倫理観・責任感を養う科目を配置する。
2. 社会福祉学の自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を修得するために、「臨床福祉学専攻科目」に各専門領域の福祉論演習に関する科目および高度実践福祉に関する科目を配置する。
3. 時代や社会の変化に対応し、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言、学際的研究において指導的役割を担う能力を修得するために、「臨床福祉学専攻科目」に福祉学特別研究に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。
4. 各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。
5. 論文作成のプロセスでは、指導担当教員による継続的教育のもと、研究計画書の作成、倫理審査、中間研究報告会と中間審査員からの指導、学外審査員を含む審査体制での最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。
6. 学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。
7. 学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。

1. 教育内容		
CP1	CP2	CP3
社会福祉学の研究としての先進的研究の遂行に必要な研究能力を修得するために、「臨床福祉学専攻科目」に各専門領域の福祉論に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に深い学識と高い倫理観・責任感を養う科目を配置する。	社会福祉学の自立した研究者として研究分野を開拓・推進し、新たな価値を創造できる研究能力を修得するために、「臨床福祉学専攻科目」に各専門領域の福祉論演習に関する科目および高度実践福祉に関する科目を配置する。	時代や社会の変化に対応し、グローバルな視野で保健・医療・福祉分野における社会実装や政策提言、学際的研究において指導的役割を担う能力を修得するために、「臨床福祉学専攻科目」に福祉学特別研究に関する科目、「看護福祉学研究科共通科目」に研究方法論に関する科目を配置する。
2. 教育方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・各科目において、学生による主体的なプレゼンテーションおよび討論を重視した教育を実施する。 ・論文作成のプロセスでは、指導担当教員による継続的教育のもと、研究計画書の作成、倫理審査、中間研究報告会と中間審査員からの指導、学外審査員を含む審査体制での最終審査、学位論文発表会を段階的に実施する。 		
3. 評価方法		
<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果については、シラバスに成績評価基準を明示した上で、厳格かつ公正な成績評価を行う。 ・学位審査の実施に際しては、研究科の定める基準により評価する。 		

入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

看護福祉学研究科臨床福祉学専攻（博士課程）では、地域社会の発展ならびに人々の健康水準の向上に貢献できる高度専門職業人の養成を目標とし、以下のような資質を持った人材を広く求めます。

1. 社会福祉学の研究者としてのキャリアビジョンをもち、高い倫理観・責任感のもと、基礎的な学力・研究力を備えている人
2. 自立した研究者として、独創的な研究課題をもち、開拓的研究に向けて深い探求心があり、自己研鑽できる人
3. グローバルな視野で学際的な研究を遂行するために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉分野の第一線で活躍する教育者・研究者を目指し、リーダーシップを発揮できる人

AP1	AP2	AP3
社会福祉学の研究者としてのキャリアビジョンをもち、高い倫理観・責任感のもと、基礎的な学力・研究力を備えている人	自立した研究者として、独創的な研究課題をもち、開拓的研究に向けて深い探求心があり、自己研鑽できる人	グローバルな視野で学際的な研究を遂行するために必要な語学力を備え、保健・医療・福祉分野の第一線で活躍する教育者・研究者を目指し、リーダーシップを発揮できる人

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語および臨床福祉学領域に関する専門科目の筆記試験および口述試験により修学に必要な学力を評価し、さらに研究計画書、履歴書および業務調書などの出願書類により修学意欲および研究計画の妥当性などについて評価します。